

# 都市再生整備計画

さかいし が い ち  
境市街地地区

いばらきけん さかいまち  
茨城県 境町

令和2年1月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	茨城県	市町村名	境町	地区名	境市街地地区	面積	287	ha
-------	-----	------	----	-----	--------	----	-----	----

計画期間	令和 1 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	令和 1 年度 ~ 令和 5 年度
------	-------------------	------	-------------------

### 目標

安全で住みよい地域社会の実現を目指し、防災・防犯など地域の安心安全対策と、住みやすい環境づくりを進め、みんなが心安らぐ安全なまちづくりを目指す。

- ・住民要望を踏まえた維持修繕により、施設の長寿命化を図る。
- ・豪雨などによる水害対策を講じる。
- ・防犯対策や交通安全対策により安心・安全なまちづくりを推進する。
- ・中心市街地と郊外の拠点とを結んだ誰もが気軽に利用できる移動手段を確保し、持続可能な中心市街地づくりを図る。
- ・観光交流施設等を回遊させることによって、賑わい溢れるまちづくりを推進し交流人口の拡大を図る。

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

境町では昭和45年11月に町の全域が都市計画区域に指定され、優先的かつ計画的に市街化を図るべき市街化区域と市街化を抑制すべき市街化調整区域とに区分された。昭和40年代には市街化区域東部および猿山地区において工業系の開発がすすめられ、平成8年から平成17年にかけて市街化区域南部において商業系の開発がすすめられてきた。また、圏央道境古河IC周辺地では新たな産業用地として境古河IC周辺地区で土地区画整理事業による整備を進めている。

本町の人口集中地区は、概ね市街化区域内及びその縁辺部に位置しており、魅力のある中心市街地を形成するため都市基盤整備を進めていく必要がある。

高齢者や障がい者等の交通弱者に対する生活環境の維持、向上を図るため、地域住民の生活交通の確保が避けて通れない課題となっております。このような中、公共施設、病院、商業施設などを結ぶ生活路線と郊外の拠点を循環するコミュニティバス(ワゴン)を走行させることにより、交通弱者に対する通院や買い物等へのアクセスを確保するとともに、街なか人に人を呼び込んで中心市街地の活性化を図る。

近年、本町のまちなかに観光交流施設が次々と建設され今後も増えることから、それらを歩いて回遊するための案内標識や照明施設、公園もなく、まちなかの駐車場も少ない。

また本町では、50年に一度といわれる記録的な大雨となった平成27年9月の関東・東北豪雨では、死者1名、負傷者3名、床上浸水246棟、床下浸水247棟、道路冠水による通行止め34箇所、用水機22箇所の浸水被害、農作物は水稲(4億1,768万円)ほか甚大な被害を受けた。

#### 課題

平成27年9月の関東・東北豪雨災害時には34箇所が冠水し、道路が通行止めとなった。町が公表する危険箇所は中心市街地に多く集中しており、市街地を守る冠水への対策は喫緊の課題となっている。

本町の人口は平成7年以降減少傾向となっており、少子高齢化が進展することによる今後の生産年齢人口の減少による都市活力の低下が懸念される。安心して子どもを産み育てられる、人にやさしく暮らしやすい環境づくりを進めるなど魅力あるまちづくりが課題である。

公共施設、病院、商業施設などを結ぶ生活路線と郊外の拠点を循環する公共交通がないため、高齢者や障がい者等の交通弱者が気軽に利用できる生活交通の確保が課題である。

まちなかに観光交流施設が点在しているが、駐車場に限りがあるため多くの集客が見込めない。また、案内標識もないことから歩いて回遊するにも不便である。それに公園や広場もないことから、子どもを遊ばせたり休憩することもままならない状況である。

#### 将来ビジョン(中長期)

だれもが将来にわたって住み続けたいと思えるまちとして、人と人のつながりのあるまちづくりを進めていく。

地震や台風火災などの災害から町民の生命や財産、生活を守り、心安らぐまちづくりに対応するため、防災・防犯など、地域の安全対策を進めるとともに、住みやすい環境づくりを進めることで、町民が心安らぐ安全なまちづくりを目指していく。

古くは利根川の水運で栄えたことなど、町の財産である豊かな水を守るとともに、便利で快適な暮らしの環境を整えながら、心豊かに安定して暮らせるまちづくりを目指す。

高齢者や障がい者をはじめとした誰もが利用しやすい市街地環境の形成を目指す。

まちなかに駐車場や公園それに案内標識を整備することにより、歩いて回遊できる賑わいのあるまちづくりを目指す。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
大雨時の冠水被害箇所数	(箇所/回)	大雨による境町災害対策連絡室等設置1回辺りの冠水被害箇所数	当該地域の道路冠水の主因である準用河川の橋梁掛替や河川整備を進めることにより地域の安全性を高める	5.7	H29	R5
道路関係要望箇所数	(件/年)	道路について寄せられる整備要望箇所の件数	道路環境の改善を図ることで、中心市街地における魅力につながる環境整備を進める	13	H29	R3
保護者安心度	(%)	学校周辺通学路利用者の保護者の安心満足度	通学路を利用する児童の保護者の不安を解消し、安心度の向上を図る	47.2	H30	R5
コミュニティバス(ワゴン)の利用者数	(人/年)	コミュニティバス(ワゴン)の年間利用者人数	高齢者や障がい者等の交通弱者に対する生活環境の維持、向上を図る	-	-	R5
観光交流施設の来場者	(人/年)	観光交流施設の年間利用者人数	歩いて回遊できる街並みを整備し、交流人口の拡大を図る	-	R2	R5

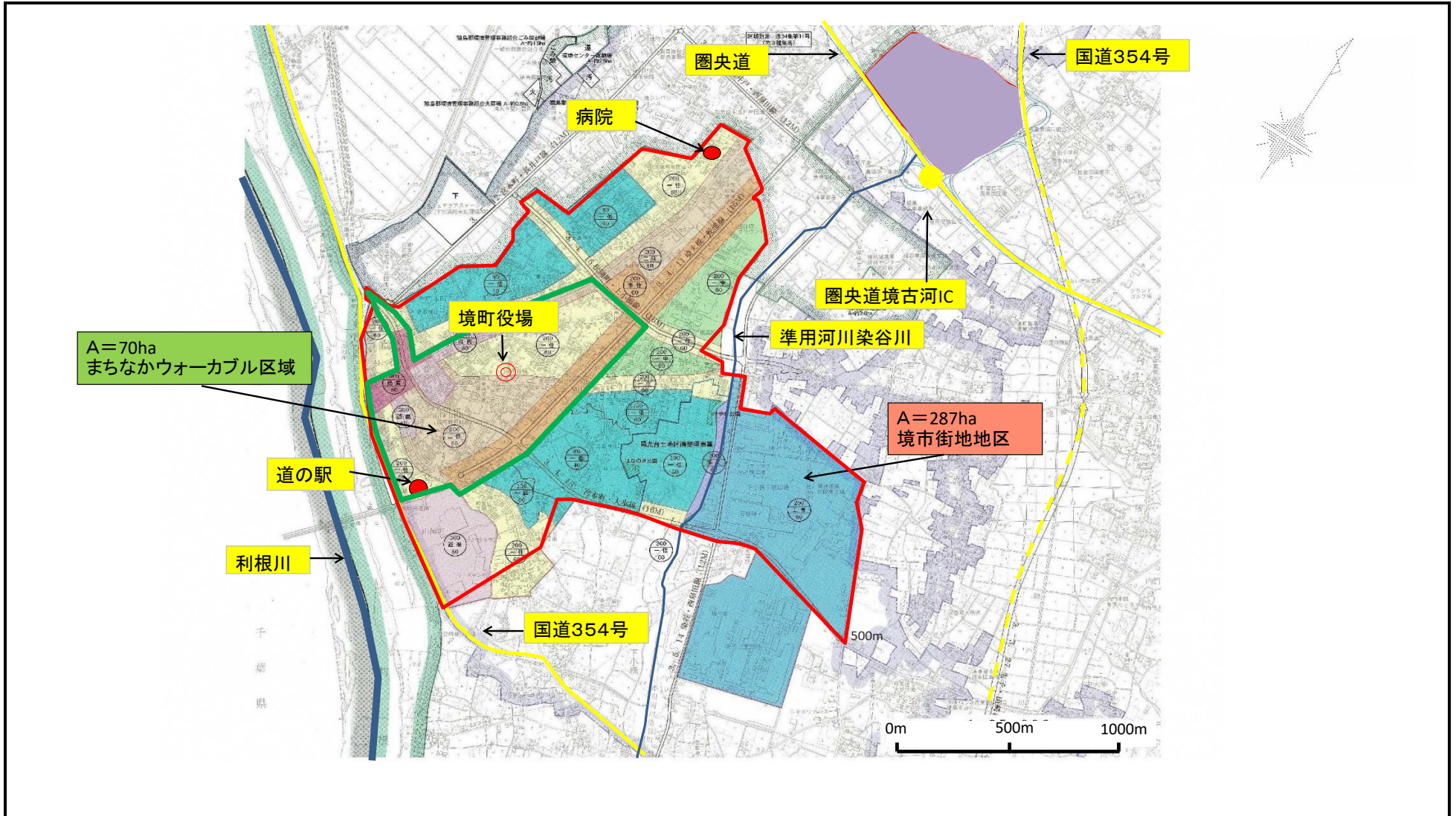
整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・住民要望を踏まえた維持修繕により、施設の長寿命化を図る</p>	<p>道路事業(町道1-7号線) 道路事業(町道1-10号線) 道路事業(町道1-11号線) 道路事業(町道1-23号線) 高質空間形成施設(カラー舗装) 提案事業(防犯灯)</p>
<p>・豪雨などによる水害対策を講じる</p>	<p>道路事業(町道1-10号線) 道路事業(町道1-23号線) 河川事業(準用河川染谷川)</p>
<p>・防犯対策や交通安全対策により安心・安全なまちづくりを推進する</p>	<p>道路事業(町道1-7号線) 道路事業(町道1-10号線) 道路事業(町道1-11号線) 道路事業(町道1-23号線) 高質空間形成施設(カラー舗装) 提案事業(防犯灯)</p>
<p>・中心市街地と郊外の拠点とを結んだ誰もが気軽に利用できる移動手段を確保し、持続可能な中心市街地づくりを図る。</p>	<p>高質空間形成施設(カラー舗装) 提案事業(防犯灯、コミュニティバス社会実験)</p>
<p>・観光交流施設等を回遊させることによって、賑わい溢れるまちづくりを推進し交流人口の拡大を図る。</p>	<p>公園 地域生活基盤施設(情報板、駐車場) 高質空間形成施設(照明施設) 道路事業(町道1-10号線)</p>
<p>その他</p>	
Empty space for other items	





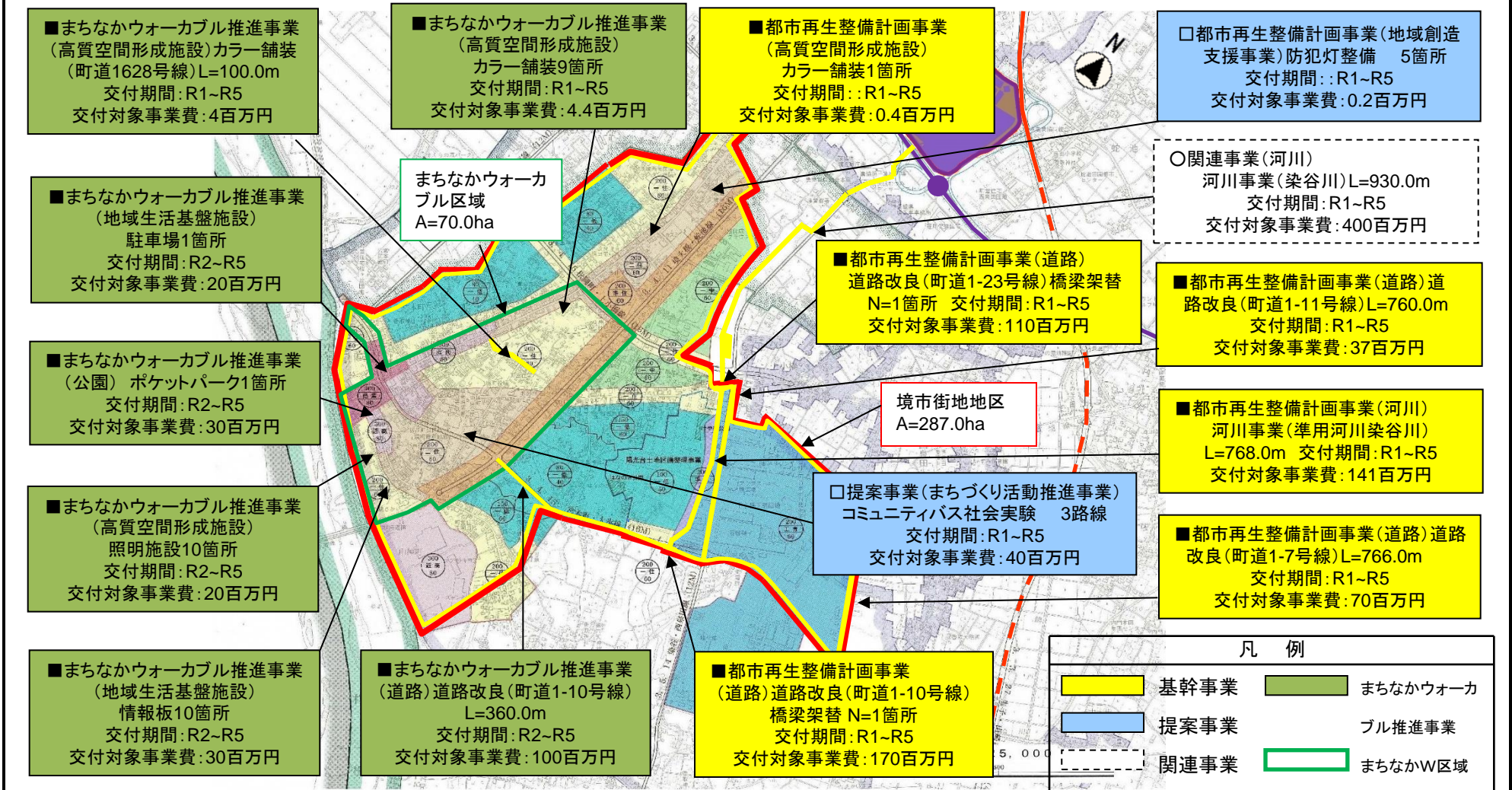
境市街地地区(茨城県境町)	面積 287.0 (70.0) ha	区域 字三町歩、字末広、字間ノ谷、字鹿野、字宮前、字鹿ノ臺、字中通、字向地、字宮久保、陽光台一丁目、二丁目等の全部と字宮本町南側、字宮本町北側、字松ノ岡、字清水臺、大字下小橋字蟬野等の一部
---------------	--------------------------	---





境市街地地区(茨城県境町) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	来訪者をまちなかウォークャブル区域内に点在する観光交流施設に回遊させること によって、賑わい溢れるまちづくりを推進し、交流人口の拡大を目指す。	代表的な 指標	大雨時の冠水被害箇所数 (箇所/回)	5.7	(29年度) →	2.3	(R5年度)
			道路関係要望箇所数 (件/年)	13	(29年度) →	3	(R5年度)
			観光交流施設の来場者数 (人/年)	-	(R2年度) →	10,000	(R5年度)





境市街地地区(茨城県境町) 整備方針概要図(まちなかウォークアブル推進事業)

目標	来訪者をまちなかウォークアブル区域内に点在する観光交流施設に回遊させること によって、賑わい溢れるまちづくりを推進し、交流人口の拡大を目指す。	代表的な 指標	大雨時の冠水被害箇所数 (箇所/回)	5.7	(29年度)	→	2.3	(R5年度)
			道路関係要望箇所数 (件/年)	13	(29年度)	→	3	(R5年度)
			観光交流施設の来場者数 (人/年)	-	(R2年度)	→	10,000	(R5年度)

